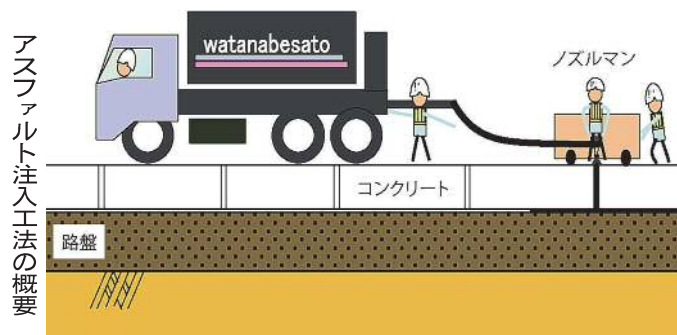


佐藤渡辺「アスファルト注入工法」

注入30分後に交通開放可能

術だ。しかし同工法を扱える舗装業者は年々減少し、現在は佐藤渡辺だけが年間20〜30件のペースで施工している。採用件数も減少傾向にあったが、舗装工事の中心が新設からリニューアルにシフトする中、同工法が再び注目を集めている。



アスファルト注入工法の概要

経年劣化したコンクリート舗装の補修に有効とされる「アスファルト注入工法」。コンクリートに空けた穴からアスファルトを注入することによって路盤材の流出でできた空洞を埋めるといったシンプルな技術だ。しかし同工法を扱える舗装業者は年々減少し、現在は佐藤渡辺だけが年間20〜30件のペースで施工している。採用件数も減少傾向にあったが、舗装工事の中心が新設からリニューアルにシフトする中、同工法が再び注目を集めている。

使用するブローンアスファルトは流動性が高く、充填性にも優れる。さらに専用の自走式アスファルト注入車を使用することで、1日で最大300〜400カ所の施工が可能。コンクリートやアスファルトを使ったオーバーレイ工法と比較し、改修後の寿命を長く保てる点も特長の一つだ。一方で課題もある。ブローンアスファルトは流動性を確保する目的で220度程度の高温に保っており、その分注入車に負担がかかり、作業員への危険もある。さらにブローンアスファルトの製造拠点は三重県四日市市の1カ所とされており、施工時にはこの

インフラメンテ時代で再び脚光

コンクリート版にアスファルトを注入するための穴を開ける様子



インフラメンテナンスティ時代への移行で同工法のニーズが高まる中、佐藤渡辺はこれらの課題を解消する方法を模索中だ。ブローンアスファルトの流動性を保ったまま、200度以下でも使用できる技術開発に取り組んでいる。さらに一般的なアスファルトでも注入が可能となるよう、ブローンアスファルトと同等の機能になる添加剤の開発を目指す。

